広葉樹林の林相改良について

問　屋敷から少し離れた所に広葉樹林を持っています。面積が比較的小さいので、現在あるミズナラを生かした林分に改良したいと考えております。この場合どのような施業をしたら良いか教えてください。　（新得町　A 生）

答　天然林の場合、まず林分の主要な樹種の構成を調べ、その林分をどのように取扱ったら良いかを判断します。ミズナラやハリギリ（センノキ）など有用広葉樹の多い林分では天然林改良を行い、ハンノキ類や灌木が大部分を占める林分では皆伐して新しく造林するのが最良です。

ミズナラを主とした林分への改良方法として、おおまかに次の 3 つが考えられますが、どの方法によるかは樹種の構成や将来目標から決定します。それでは具体的な方法についてごく簡単に説明します。

１）天然下種補整自然の力（種子落下）を利用して更新を促進し、林の内容を改良する方法で、現在のミズナラが母樹となるような施業を行います。そのためには、結実しやすくするため立木の 1 部を伐って疎開させ、林分全体を明るくします。次に、種子が落下したとき発芽しやすい林床に改善します。この改善方法として、ササなどを除去したのち、林床の 1 部を耕うんする「かき起し」が効果的です。しかし、ミズナラがいつ結実するか、ミズナラ以外の樹種がどの程入侵入してくる蚊など、いくつかの問題点があります。

2）広葉樹林改良ミズナラを主とした林分に改良するため、不良木の伐採などを行います。この方法は林分全体の立木密度が高く、ミズナラの生長が他の樹種によって妨げられている場合にきわめて有効で、不良木を伐ることにより、ミズナラの今後の生長が期待できます。伐採にあたっては、特に残す木の配置に注意します。例えば、萌芽更新によって数本が株立ちしている場合、形質の悪い木を伐って 2～3 本に仕立てると直径生長がさらに期待できます。また、ハリギリなどの有用広葉樹はできる限り残すことにします。

3）誘導造林ミズナラを生立させたまま、樹下に新しく造林を行うため、一般に「樹下植栽」とか「植込み」といわれる方法で、ミズナラと造林した樹種の両方に期待します。造林する樹種は、針葉樹でも広葉樹でもかまいませんが、選択に十分注意します。つまり、施業として樹下に植栽する訳ですから上木をある程度伐採し、太陽光線を多量に必要とするカラマツなどの陽樹をさけ、耐陰性の優れた樹種（陰樹）を選定します。

「植込み」に使用する樹種として、比較的耐陰性が高いトドマツやアカエゾマツ、ミズナラなどが適当でしょう。ここで、トドマツは寒風害や霜害を受けやすく、アカエゾマツは寒風害を受けやすい樹種なので、特に道東地域は寒風害の常習地帯ですから、斜面方位や地形なども考慮します。また、上木および植栽木の今後の施業計画を想定しておくと良いでしょう。

林相の改良方法は、以上述べてきたことを参考にして総合的に判断して下さい。なお、これら天然林改良―面積 0.1ｈａ（1 部０.3ｈａ）以上―を行った費用には、補助金が出ますので、詳しくはお近くの支庁林務課、林業指導事務所、市町村あるいは森林組合に問い合わせ下さい。

（道東支場　梶　勝次）